

## はじめに

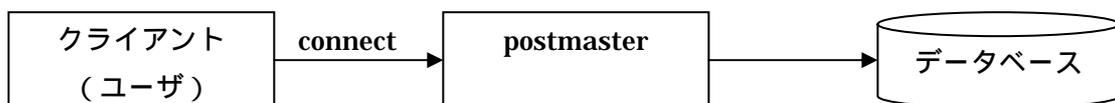
本文書に記す PostgreSQL のインストール手順は、井戸ゼミにて行った方法で Vine Linux がインストールされた PC にて行うことを前提としています。

## 準備するもの

PostgreSQL のパッケージはすでにインストールされています。特に準備するものはありません。

## 予備知識

PostgreSQL では、ユーザが直接データベースにアクセスするのではなく、“postmaster” と呼ぶデータベースサーバプロセスを介してアクセスします。



このため、一般ユーザとは別の形で、postmaster 用の、“postgres” というアカウントを設けます。手順の中で、“su - postgres” などといったコマンドが出てきますが、これは“postgres” というアカウントを使っているためです。

## 手順

### 1. パッケージのインストール

みなさんの Linux PC には、すでに PostgreSQL のパッケージがインストールされています。次のコマンドを投入して確認してください。

```
% su -  
Password : (パスワードの投入)  
[root]% rpm -qa |grep postgresql  
postgresql-7.2-0v13  
postgresql-contrib-7.2-0v13  
postgresql-devel-7.2-0v13  
postgresql-docs-7.2-0v13  
postgresql-jdbc-7.2-0v13  
postgresql-libs-7.2-0v13  
postgresql-odbc-7.2-0v13  
postgresql-perl-7.2-0v13  
postgresql-python-7.2-0v13  
postgresql-server-7.2-0v13  
postgresql-tcl-7.2-0v13  
postgresql-tk-7.2-0v13
```

“rpm -qa” は、インストール済みのパッケージの一覧を表示するコマンドです。その中から、文字列“postgresql” を含む行を表示 (“grep postgresql”) させています。

## 2. 初期設定

PostgreSQL がデータベースの元データを作成するディレクトリを指定して、初期設定を行います。以下の作業は、必ずアカウント “ postgres ” にて行ってください。

```
[root]% su - postgres
[postgres]% /usr/bin/initdb -D /var/lib/pgsql/data
```

すなわち、“ /var/lib/pgsql/data ” のディレクトリにデータベースの元データを作りました。メッセージがたくさんありますが、“ ok ” と “ Success ” が出ていれば、OK です。

## 3. 起動とユーザ登録

引き続き、PostgreSQL の起動と、ユーザ登録を行います（システムの起動時に PostgreSQL を起動するように設定することは、後で行います）。アカウント “ postgres ” のままで行ってください。

```
[postgres]% /usr/bin/postmaster -D /var/lib/pgsql/data
```

起動がうまくいったら、ユーザを登録します。自分のアカウントを登録してください。

```
[postgres]% /usr/bin/createuser ido
Shall the new user be allowed to create database? (y/n) y
Shall the new user be allowed to create more ne user? (y/n) n
```

最初の “ y ” は、登録したユーザ “ ido ” が、データベースを作成出来ることを指定しています。次の “ n ” は、“ ido ” が新たなユーザを登録する権限は無いことを指定しています。

## 4. 動作確認

“ exit ” を 2 回投入して、自分のアカウントに戻ってください。

```
[postgres]% exit
[root]% exit
```

動作確認のために、データベースを作ってみます。

```
% createdb 021029temp
CREATE DATABASE
```

“ 021029temp ” という名前のデータベースが出来ました。これを開いてみます。

```
% psql -d 021029temp
Welcome to psql, PostgreSQL interactive terminal.
:
021029temp=>
```

この状態で、テーブルを作ったりクエリを実行したりすることが出来ます。データベースの操作については別資料に譲ることとして、データベースを閉じます。

```
021029temp=> \q
```

## 5. 起動時に PostgreSQL を立ち上げる設定

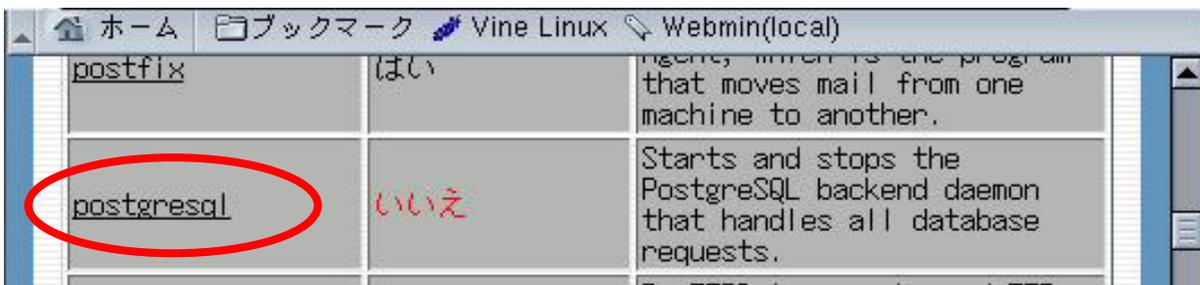
( 1 ) WEBMIN での設定



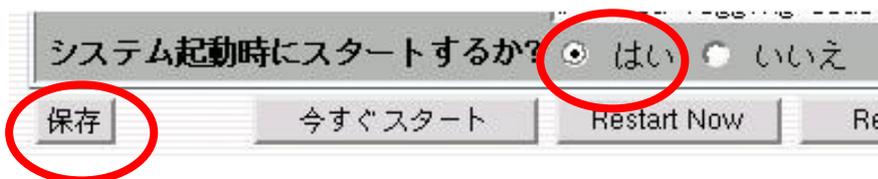
[システム]を選択し、[システムの起動とシャットダウン]を選択します。



[postgresql]を探して、クリックします。



“システム起動時にスタートするか？”について、[はい]を選択し、[保存]をクリックします。



(2) WEBMIN でうまく行かない場合

次のファイルを、スーパーバイザになって編集します(su -)。

```
/etc/init.d/postgresql
```

末尾に次の編集イメージを追加します。

```
# 2002.12.6 Ido
```

```
start(){
    echo -n "Starting PostgreSQL:¥n"
    su -l postgres -c "nohup /usr/bin/postmaster -o -i -D /var/lib/pgsql/data
>/var/log/pgsql 2>&1 &"
}
#
stop(){
    echo -n "Stopping PostgreSQL....¥n"
    su -l postgres -c "/usr/bin/pg_ctl -D /var/lib/pgsql/data stop"
}
#
```

```

case "$1" in
  start)
    start
    ;;
  stop)
    stop
    ;;
  restart)
    stop
# Ugly hack
    sleep 2
    start
    ;;
*)
    echo "Usage: postgresql {start|stop|restart}"
    exit 1
esac
# end of 2002.12.6 Ido

```

## 6 . セキュリティ設定

次のファイルを、ユーザ “ postgres ” になって編集します(su -;su - postgres)。

```
/var/lib/pgsql/data/pg_hba.conf
```

末尾近くの次の2行のコメントを外します。

```

#local      all                                     trust
#host       all          127.0.0.1    255.255.255.255    trust

local      all                                     trust
host       all          127.0.0.1    255.255.255.255    trust

```

上記は暫定的な処置です。詳細は、追って勉強していきます。

## おわりに

今後、このマニュアルを改良していく予定でいます。お気づきの点があれば、教えて頂けると助かります。

- 以上 -